

【資料7】

東京2020大会に向けた ボランティア戦略

東京都

公益財団法人オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

2017年1月22日（日曜日）

1 東京2020大会のボランティア

(1) 一体的なボランティア運営

- ・都と組織委員会は、戦略を一体的に作成・公表
- ・募集、研修から運用、大会後に向けた取組等、可能な限り都と組織委員会とが、一体となったボランティアの運営を図る
- ・本戦略を基に都以外の会場を有する自治体とも一体的な取組を推進

(2) ボランティア9万人以上が活躍

＜大会ボランティア＞（組織委員会が担当）

競技会場、選手村などの大会関係施設において、会場内の観客の案内・誘導、受付業務、競技運営のサポート等、直接大会運営に携わる

＜都市ボランティア＞（都が担当）

空港や主要駅、主要観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内、競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等を行う

(3) 東京2020大会においてボランティアが果たす役割

- ・日本人の強みである「おもてなしの心」や「責任感」を活かして行動
- ・自らの役割を心から楽しんで活動に参加し、大会全体の雰囲気盛り上げ

2 戦略の主な内容

(1) 活動内容

【大会ボランティア】

種類	活動内容（例）
会場内誘導・案内	観客、大会関係者の誘導、チケットチェック、入場管理のサポート
ドーピング検査	ドーピング検査員のサポート
ドライバー	大会関係者の移動に係る運転業務
スタッフ受付	スタッフの受付業務
ユニフォーム配付	スタッフ（ボランティアほか）へのユニフォームの配付
メディア対応サポート	日本やその他各国メディアの取材活動のサポート
言語サービス	大会関係者に対する外国語でのコミュニケーションサポート
選手団サポート	各国から訪れる選手団へのサポート
物流サポート	競技会場や選手村等における物品の管理や整理をサポート
持続可能性活動サポート	選手、観客等にゴミの分別方法の案内などのサポート
ID発行サポート	大会関係者が保有するIDの発行業務
競技運営サポート	競技エリアや練習会場における競技運営の補助業務

【都市ボランティア】

種類	活動内容（例）
観光・交通案内	空港、主要ターミナル駅、観光地等に設置するブースにおける選手・大会関係者や、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内
観客の案内	競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等



(2) 募集

〈応募条件検討の方向性〉

- ・平成32（2020）年4月1日時点で満18歳以上の方
- ・ボランティア研修に参加可能な方
- ・日本国籍を有する方又は日本に滞在する資格を有する方（大会ボランティア）
- ・日本国籍を有する方又は日本に居住する資格を有する方（都市ボランティア）
- ・10日（大会ボランティア）／5日（都市ボランティア）以上活動できる方
- ・東京2020大会の成功に向けて、情熱を持って最後まで役割を全うできる方
- ・お互いを思いやる心を持ちチームとして活動したい方



(3) 研修等

- ・都と組織委員会が連携し、共通的な研修（接遇、大会概要など）を実施
- ・多言語対応への取組等を検討（例：配布物、ICTの活用）



(4) 多様な参加者の確保

ア 障がい者

- ・募集、研修、配置等、それぞれのプロセスにおける環境整備に取り組む
(例：バリアフリー、障がい者用トイレの整備状況等)

イ 児童・生徒

- ・都内の小学生・中学生・高校生のボランティア体験
- ・都内に加え、被災地等の中学生・高校生が大会運営を体験できる場についても検討

ウ 働く世代・子育て世代

- ・ボランティア休暇の整備・取得促進
- ・託児所の利用等、子育て世代も参加しやすい環境の検討

エ その他

- ・多様性に関する理解を促進する研修の実施等、ソフト面での対応を充実
- ・試験日程の配慮の働きかけ等、大学生がボランティア活動へ参加しやすい取組を検討

(5) 各自治体等との連携

ア 各自治体・団体との連携

- ・競技会場を有する都外自治体
ユニフォーム等の統一化、研修の共有化
- ・被災地をはじめとする全国自治体
全国観光情報の発信等による大会開催効果の全国への波及
- ・都内区市町村など
日頃から地域で活動している団体、交通事業者等との連携

イ より多くの都民が参加できる取組

参加意欲のある都民が大会の担い手であると実感できる取組を検討

ウ ラグビーワールドカップ2019™との連携

都市ボランティアの募集を平成29年度に一部前倒して実施し、ラグビーワールドカップ2019™での経験を大会に繋げる

(6) 参加気運の醸成・裾野拡大

- ・シンポジウムやウェブサイトを通じ、ボランティアの魅力を発信
- ・今後、魅力あるユニフォームやネーミング等、東京2020大会のボランティアに参加したくなるような取組を検討

(7) 大会後のレガシー

- ・大会後もボランティアとして活躍できる仕組みを構築するため、関係機関と連携しながら検討



3 スケジュール

	2017年	2018年	2019年	2020年
検討 運営準備	→			
募集※		→		
書類選考			→	
面接			→	
採用決定 採用通知			→	
研修				→

東京2020大会

※都市ボランティアの一部は2017年度末から前倒して募集し、ラグビーワールドカップ2019™において先行的に活動する。